

二〇二四年度 大妻中野中学校

第一回アドバンスト入試
第一回グローバル入試

二月一日午前 問題用紙

国語

座 席 番 号			
			番

受 験 番 号			
			番
			氏 名

受験上の注意

- (一) この問題用紙は表紙を含めて全部で10ページあります。
- (二) 試験開始後、後たにペジ数を確認してください。
- (三) 問題用紙、解答用紙それぞれに座席番号と受験番号と氏名を忘れずに記入してください。
- (四) 座席番号と受験番号は算用数字で記入してください。
- (五) 試験時間は五十分です。
- (六) 解答はすべて解答用紙に記入してください。
- この試験は百点満点です。

【一】 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（ただし、句読点や記号も一字に数えます。）

「日本は狭いという幻想」

日本文化は「縮み志向」の文化だと言われて、なるほど、と思えてしまうのは、①日本の国土は狭いということが、通り相場になっていることが大きいと思う。でも、実際には、日本はそれほど狭くはないのである。

世界の諸国の中で、日本より面積が狭く、しかも生活適地が少ない国はたくさんある。

ヨーロッパなどは、そのほとんどが日本より狭い国土の国ばかりである。しかも、*二〇〇海里法の時代となった現代では、日本は世界第七位の地球表面積の国となっている。

韓国と北朝鮮を合わせても、日本よりずっと狭いし、広大な平野部もないし、韓国の首都圏の②人口密度はかなりなものだ。ところが、その「実際には狭い国」に住む韓国人ですら、多くの者が「日本は狭い」という印象を持っているのである。なぜ、日本はことさらに狭い国と言われるのだろうか。

それは、島国だからである。大陸諸国や大陸と地続きの半島諸国は、実際には狭くとも、大陸の広大な拡がりの中で自分の国をイメージしているから、狭いという意識はあまり湧いてこないのである。日本人自ら「日本は狭い」と言い、「島国根性」と言えば、視野の狭い考え方、世間知らずの考え方、代名詞のようになってしまいうのも、島国は狭いという大陸側の意識の反映と言えるだろう。

繰り返すが、日本はとりたてて狭い国ではないのである。それよりも、島国であること、しかも絶海の孤島ではなく、かといって大陸から容易に渡れる島でもなく、適度に離れた島の連なりとして国があること。そして、いい意味でも③悪い意味でも「島国根性」を育んできたということ、そこに大きな特徴がある。

日本は、島国という地勢が形づくる自然な枠組みに限定づけられている。その意味では、大陸諸国は自然の枠組みから受ける限定が比較的小さい。実際、大陸諸国の歴史は、他民族の侵入、すなわち支配・被支配の歴史に彩られており、国境線は絶え間なく変化し続けてきたのである。

一方、日本は周囲を海という自然の防波堤に囲まれていたために、他民族の侵入・支配を受けることがなかった。だからこそ、土着の文化を純粹培養する一方、他国の諸文物を採り入れて自らの土壌に植え替え、じつくりと時間をかけて養生する、といった形で文化を育むことができた。

そうして形成されてきた日本文化の特徴は、「狭い」とか「小さい」とかいうことよりも、「融合」にあるのだと思う。

つまり、日本は島国であったために、人種と文化の*増埒として機能したのである。日本という増埒の中で、渡来人も土着民も、外来文化も土着文化も、また狩猟民・漁業民・農耕民も、相互に溶け合い、融合していったのである。

継ぎ目もないほど融合したというわけではないが、日本については、大陸諸国と比較して、よりそうした傾向が強い。これは重要なポイントだと

言えよう。

“見立て”の文化とは何か？

「縮み志向」という観点は、明らかに「狭い」「小さい」Aといった現象面に焦点を当てた見方である。それが志向性として「縮み」を含んでいる場合もあるには違いない。しかし、多くの場合、それは「縮み」というよりは、「見立て」への志向が生み出したものというべきだと思うのである。

日本庭園に形づくられる山や滝などは、自然の山や滝を縮めたところに意味があるのではなく、自然の山や滝をプロトタイプ（原型）として見立てたこと、また、その「見立て」の手法にこそ④意味がある。

山や滝のイメージを構成する最小限の型・枠組みだけを残して、ぎりぎりのところまで省略し、洗い出されたものが、日本庭園に見る山や滝なのではないかと思う。

それは、一種の純化の美学とも言えるが、そもそも「見立て」への志向性は、幼児がお山に見立てて砂を盛って遊んだり、タバコの箱を電車や自動車に見立てて遊んだりする心に発している。

ある意味で、幼児の遊びの世界それ自体が「見立て」の世界だとも言える。お人形さんゴッコしかり、オママゴトしかり、お馬さんゴッコしかり、である。

幼児がタバコの箱を床の上に滑らせながら、「ガタンゴー、ガタンゴー」と電車の動く音を出して遊んでいる。そのときの幼児は、タバコの箱を、ほんとうの電車と感ずることのできる世界に遊んでいる。そうやって遊ぶことができるのは、電車が電車であるための最低限の型・枠組みを、しっかりと感じ取ることができているからである。

そのような意味から、庭や盆栽を「大人のおもちや」と私が感じたことは、まったく間違いだとは言えなかったのである。

⑤もちろん、おもちゃではないのだが、「見立て」という志向が、幼児の心に通じるものであることが興味深い。

身近な器具などでママゴト遊びをする幼児的な「見立て」への志向を、大人の美意識が引き受けていった先に、庭や盆栽が生まれたのではないか。見立て上手のセンスが、大人の文化のなかで高度化していった。それもまた日本人特有のB心ゆえのことなのだろう——私はそんなふうにいる。

それにしても、日本ではなぜ、幼児以来の「見立て」志向が、高度な文化の形成にまでかわることになったのだろうか。

私には、それにいますぐ答えるだけの用意はないが、「古典生け花の様式美」や、茶碗に見られるような「ひなびた美」を支えている意識とが、どこか底のほうで通じているのであらうと思われる。

⑥「間合い」と「わび・さび」のむずかしさ

茶道の精神は「わび」にあると言われるが、「ああ、これがわびなんだ」という深い情緒的な体験が、私はいまだに持てないでいる。明るい光と豊かな輝きを基調とする雅の文化は、貴族社会に由来をもつ文化だが、「わび」の文化は、薄明の中でひっそりと鈍色に輝き続けた名もなき民衆に由来をもつ文化だ——そこから単純に「雅⇨派手」「わび⇨地味」と理解していた時期があった。

しかし、茶の湯で使われる茶碗には、清水焼や乾山焼のように、雅びて華やかな印象を与えるものも、けっして少なくないのである。派手な染め付けをした茶碗にお茶をいただき、⑦私が不思議そうな顔をして「こういう茶碗もあるんですね……」とつぶやきながら茶碗を眺めていたときのこと。

「この茶碗は『⑧きれいわび』を表わしたものですよ」

茶の湯好きな知り合いの日本人が教えてくれた。「きれいわび」とははじめて聞く言葉だった。

その茶碗は、白、ピンク、黄色、赤の四色を用いて、桜の花と紅葉が器の表と内側にいっぱい描かれた、華やかなものだった。それも、例の形を崩した素朴な図柄ではなく、禅味というのだろうか、いかにも気品ある図柄である。

「桜は春を表わし、紅葉は秋を表わすんです。つまり、田植えと収穫の象徴でもあるんですよ」

そう説明してもらった。一見の華やかさ、格調の高さの中にも、いい知れない寂しさがあり、侘しさがある。そこを感じとる、ということなのだろうか。

よくはわからないが、単に「わび⇨地味」「雅⇨派手」というわけではないのだということだけはわかった。

美的なセンスに優れた人は別にして、私のように、とくに美術の素養もない外国人にとって、日本文化の美意識を理解するのはたいへんなことだが、なかでも「わび」「さび」の理解が最もむずかしい。

古池や 蛙飛び込む 水の音

柿食えば 鐘が鳴るなり 法隆寺

⑨これらの句から、私が受け取ることのできる感じは、多くの日本人が言うように、「何か、心の深いところにジーンとくる」とか、「水の音や鐘の音が心に染み渡るような気持ちになる」とかいったものとはちょっと違っている。

まず、アニメーションの印象的なシーンが、パツパツと連続して映し出されているような、視覚的な映像が浮かんでくる。それがとても興味深くて、楽しくなる、というのが最初の体験だ。

軽妙なタッチの水墨画といったらいだろうか、手なぐさみに、軽い気持ちで描かれた数枚の連続絵、というイメージである。これもまた、遊び心なしではつくれないものと感じる。

しかし、この連続絵にもまた歪みの美学がある。たしかにリズムは整っているし、一定のメロディーも聞こえてくるような感じはある。でも、それよりも「間」の存在が大きいのである。

「古池や（間）蛙飛び込む（間）水の音」というように、この描かれていない空白の部分があってこそその連続性なのである。――Ⅰ――アナログな連続性ではなく、デジタルな不連続の連続性なのである。

この「間」の効果によって、「意味」の秩序が歪められている。逆に言えば、間をどう構成するかによって言葉が選ばれているとすら感じさせられるほど、間が重視されているように思う。

「古池にボチャンと音を立てて蛙が飛び込む」

「柿を食べていると法隆寺の鐘の音が聞こえる」

こう散文で書き換えて感じるイメージと、俳句形式で書かれたものから感じるイメージとが、大きく異なっているのは、――Ⅱ――、この「間」のせいである。

間があるために、五、七、五の語句は、それぞれ独立した映像イメージを喚起する。

それは、日常会話でもよくあることだ。「私はあなたを愛しています」とスツと言えば、意味をそのまま伝えたい意思を感じることができるが、「私は……あなたを……愛しています」というように言えば、そこには何かその人固有の含みを感じないではいられない。

つまり、「私はあなたを愛しています」という意味が歪むのである。

「わび」「さび」そのものは、――Ⅲ――どうもしっくりとはわからないのだが、この「間」による意味の歪みをもたらす俳句形式それ自体が、そこに大きな効果を与えていることは確かなことだと思う。

④直接的な感覚として、なかなか理解できないものについては、こんなふうに理屈っぽくわかっていくことも、異文化を照らしてみる場合には大切なことではないかと思う。

（呉善花『ワサビの日本人と唐辛子の韓国人』祥伝社黄金文庫より）

〔注〕 *1 二〇〇海里……沿岸から二〇〇海里までの漁業について、沿岸国が排他的管轄権^{かんかつ}を行使する水域のこと。

*2 増埒……金属などの物質を強く熱して溶かすのに用いる耐熱性の容器。

問一 — 部①「日本の国土は狭いということが、通り相場になっている」とありますが、内容的にこれとほぼ同じことを言っている部分を文中から十六字で抜き出して答えなさい。

問二 — 部②「人口密度はかなりのものだ」とありますが、「かなりな」とはここではどういう意味で用いられていますか。次のア～エの中から最もふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア. 厚い状態である イ. 薄い状態である ウ. 高い状態である エ. 低い状態である

問三 — 部③「悪い意味でも『島国根性』を育んできた」とありますが、「悪い意味」での「島国根性」として具体的な例を挙げている部分を文中から十字以上二十字以内で抜き出して答えなさい。

問四 文中の空欄 **A** にあてはまる最もふさわしい語を次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア. 軽い イ. 弱い ウ. 短い エ. 固い

問五 — 部④「意味」とありますが、ここでの「意味」と同じことを指している語句を2ページの文中から二字で抜き出して答えなさい。

問六 — 部⑤「もちろん、おもちゃではないのだが」とありますが、

(1) 筆者は、ここでは何が「おもちゃではない」と言っていますか。五字以上八字以内で具体的に答えなさい。

(2) (1)の答えは「おもちゃではなく」、何だと筆者は言いたいのですか。次の文の空欄《 》にあてはまる語句を3ページの文中から五字で抜き出して答えなさい。

・もちろん、おもちゃではなく《 》なのだが

問七 文中の空欄 **B** にあてはまる最もふさわしい語を次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア. 恵み イ. 情け ウ. 学び エ. 遊び

問八 ——— 部⑥『間合い』と『わび・さび』とありますが、これらを例として筆者がここで言おうとしているのはどのようなことですか。それについて説明している部分を4ページの文中から二十五字以内で抜き出して答えなさい。

問九 ——— 部⑦「私が不思議そうな顔をして」とありますが、なぜ不思議そうな顔をしたのですか。次のア～エの中から最もふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア. 茶道で用いる華やかな茶碗を初めて見たため、その使い方がよく分からず戸惑いを隠せなかったから。

イ. 茶道で用いる茶碗は地味なものばかりと思っていたため、華やかな茶碗が使用されていることに驚いたから。

ウ. 派手な染め付けをした茶碗が『きれいわび』を表わすと教えられたが、「さび」については分からなかったから。

エ. 貴族が用いていた伝統的で雅な茶碗を、どうして外国人である自分に使わせてくれたのか分からなかったから。

問十 ——— 部⑧「きれいわび」とありますが、外国人である筆者はそれをどのように解釈しましたか。「～こと。」につながるように、文中の言葉を用いて、三十五字以内で説明しなさい。

問十一 ——— 部⑨「これらの句から、私が受け取ることのできる感じ」とありますが、これらの俳句から筆者が感じ取っているものとしてふさわしくないものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア. 遊び心のある映像的イメージ

イ. しみじみとした素朴な感動

ウ. デジタルな不連続の連続性

エ. 歪みの美学

問十二 文中の空欄「――」ⅠⅡⅢにあてはまる語の組み合わせとしてふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- | | | |
|-----------|--------|--------|
| ア. Ⅰ おそらく | Ⅱ さすがに | Ⅲ けつして |
| イ. Ⅰ 明らかに | Ⅱ おそらく | Ⅲ まさか |
| ウ. Ⅰ けつして | Ⅱ 明らかに | Ⅲ いまだに |
| エ. Ⅰ まさか | Ⅱ さすがに | Ⅲ おそらく |

問十三 ―――部⑩「直接的な感覚」とありますが、「直接」という語句を他の語句に置き換えても内容的に同じことが言えます。その語句を

4 ページの文中から二字で抜き出して答えなさい。

問十四 次のア～オは本文について説明したものです。本文の内容と合致しているものは○、合致していないものは×でそれぞれ答えなさい。

- ア. 日本は地政学的に自然の枠組みから受ける影響が小さかったので、他民族の支配を受けずに済んだ。
- イ. 日本庭園では、自然の景観を庭の中にそのまま小さく縮めて造形している点に大きな意味がある。
- ウ. 茶道においても「わび」と「雅」な精神が同時に存在することを知って、合点がいった。
- エ. 俳句形式では「間」の存在により言葉の表面に表われない意味や内容を感じとることが出来る。
- オ. 理解しがたい異文化を理解するためには、心ではなく頭を使って考えることも必要だと考えている。

二 次の各問いに答えなさい。

A 漢字に関する問題

問一 次の①～⑤の――部の漢字の読み方をひらがなで答えなさい。

- ① パレードを見ようと全国から老若男女が集った。
- ② お寺からお坊さんの説經の音が聞こえてきた。
- ③ いつまでも名残おしく手を振って姉を見送った。
- ④ 私たちの卒業式は厳かに執り行われました。
- ⑤ 信長が大軍勢を率いて長篠の戦いに挑んだ。

問二 次の①～⑤の空欄□に、下の意味になるような漢字一字を書き入れて、三字の熟語で答えなさい。

- ① □ 始末 …… 他人に迷惑を及ぼすようなこと。
- ② □ 売品 …… 一般の人には売らない品のこと。
- ③ □ 理解 …… 相手の気持ちや考えを理解しないこと。
- ④ □ 発表 …… まだ広く世間に発表されてないこと。
- ⑤ □ 神経 …… 世間の評価や他人の思惑などを気にしないこと。

B ことわざ・慣用句に関する問題

問三 次の①～⑤の慣用句の□・□にはそれぞれ漢数字が入ります。A・Bの数字を足し算すると合計はいくつになりますか。漢数字で答えなさい。

- ① □ 死に□ 生を得る
- ② □ 寸の虫にも□ 分のたましい
- ③ □ つ子のたましい□ まで
- ④ □ 転び□ 起き
- ⑤ □ 兎を追う者は□ 兎をも得ず

C 文法・言葉づかいに関する問題

問四 次の①～⑤の――部のア～エの語の中で、言葉のはたらきが他と異なるものを一つ選び、記号で答えなさい。

① ア. 彼はサッカーが得意だ。
ウ. 私たちはこの町で有名だ。

イ. あなたはとても親切だ。
エ. 父は今日をもつて定年だ。

② ア. 弟はあどけない顔をしている。
ウ. 申し訳ないことをしてしまった。

イ. あの人はとてもだらしない性格だ。
エ. そんなみつともないことはやめましょう。

③ ア. どんなに騒ごうと、ここでは平気だよ。
ウ. 夜更かしすると、朝起きるのがつらい。

イ. 私が手伝うと、母の仕事もはかどる。
エ. 思い出してみると、とても恥ずかしい。

④ ア. 入試合格の吉報が待たれる。
ウ. よく、外国人に道を聞かれる。

イ. 試合で同点に追いつかれる。
エ. 旅先で突然雨に降られる。

⑤ ア. 二人はいつでも仲がよさそうだ。
ウ. 冬の北海道はとても寒そうだ。

イ. この近くに駅がありそうだ。
エ. これから彼は出かけるそうだ。

問題は以上です。

